日本における 1950 年代の彫刻設置事業

Sculptural Installations of the 1950s in Japan

竹田 直樹*

Naoki TAKEDA

摘要：本報は、計画的な彫刻設置事業が展開する以前すなわち 1950 年代の初期的な設置事業を分析の対象とし、それらの事業の目的や性質について調査と分析を実施するものである。結果として、1950 年代の彫刻設置事業は、戦後の新しい社会的価値観や平和主義あるいは自由主義というような新しいイデオロギーを賛美することを目的とすることが多かったこと、それまでになかった男女の裸像が出現したこと等が明らかになった。したがって、これらの設置事業は戦前の銅像と近年の計画的な彫刻設置事業の双方の性質を合わせ持つということができる。両者の変遷期における中間的な性質もつ設置事業であったと考えられる。

1. 研究の背景と目的

前報¹⁾では、彫刻設置事業における作品選定システムを分析対象とした。ここで設置事業の目的設定のあり方に関する分析が必要ことがわかった。都市景観の修景や文化振興などを目的とする計画的な彫刻設置事業は、1961 年に宇部市で始まり、この事業が 1970 年前後以降に神戸市、横浜市、仙台市、八王子市、長野市などに発展的に拡がり、1980 年代に全国レベルに拡大したことが知られている。前報の流れをふまえれば、この拡大過程における設置事業の目的の変遷を分析しなければならないことになる。ではあるが、1961 年以前にも小規模で単発的な彫刻設置事業が存在し、この部分を無視すれば以後の時代の分析に支障を来す恐れがある。そこで、本報では、計画的な彫刻設置事業が展開する以前のきわめて初期的な設置事業を分析の対象とし、それらの事業がどのような目的に基づいていたのか、そしてどのような性質をもつものであったのかについて明らかにすることを目的とする。

2. 研究の範囲

1961 年以前の彫刻設置事業には大きく 2 つの流れが存在する。一つは、戦争中に銅鉄供出の対象となり金属資源として利用されたいわゆる銅像のうち、戦後の社会状況に不整合ではないものを再鋳造し設置する事業である。明治期に設置が始まった銅像は、記紀神話や明治維新、西南、日清、日露戦争の英雄など実在した人物をモチーフとする彫像で、当時の国家主義あるいは軍国主義的な社会風潮やイデオロギーを表現するものであり、欧米の影響を強く受けたものであった。戦争中の供出を免れ残ったものもその多くが馬に乗る軍人や戦闘状態にある兵士の群像であったため軍国主義的なものとされ、終戦直後に撤去、破壊あるいは移設されている。戦後に再鋳造され復活した銅像は、文化人や歴史上の人物など近代戦争と無関係な人物のものであった。²⁾

もう一つは、戦前には見られなかった匿名性のある人物などをモチーフとする新しいタイプの設置事業である。この流れは、明らかに 1961 年以後の今日へ繋がる彫刻設置事業との関係性が高く重要である。

したがって、本報では、1945 年から 1960 年までに公共的な場所に設置された、実在した人物をモチーフとする銅像以外の彫刻を分析の対象とする。

この時期の公的空間に設置された彫刻に限定して着目した研究は見当らず、本報が最初のものとなる。

3. 研究の方法

(1) 分析対象の把握方法

分析対象となる彫刻、以下サンプルと呼ぶ、の存在を把握するために、筆者らが過去に実施した調査の結果³⁾⁴⁾を活用した。この調査は全国の公的空間に設置された彫刻の所在を網羅的に把握することを目的に、1986 年から 1987 年にかけて、人口 10 万人以上の 230 の都市に対して実施したもので、156 の都市から公的空間に設置された彫刻に関する 2,143 点のデータを得ることができた。この調査における質問紙の回収率は 67.8%であった。さらに、1990 年から 1996 年にかけて、全国を対象に現地調査を行い、現地におけるヒアリングによる新たなデータの獲得とそれらの写真撮影を行った。⁵⁾ この調査では、前記の調査で質問紙が未回収となった 74 の都市のうち、58 の都市が調査対象になっている。したがって、10 万人以上の都市に対しては、概ね 93%が調査対象になったことになる。いうまでもなく、これらの調査結果には本報に有用となるサンプルが含まれている。加えて、本報では本報独自の目的をふまえ、2000 年 9 月から 10 月にかけて新たに都道府県立美術館や県庁の担当所管などに個別に調査を依頼し、サンプル数をでき得る限り増加させることを試みた。この調査により、人口 10 万人以下の都市のデータが相当程度カバーされたと考えられる。

(2) 分析方法

各サンプルについて取得するデータは、設置年、作品制作者名、題名、素材、設置場所、作品内容の 6 項目とし、作品内容は画像データとし、設置場所は所在地の名称と設置状況に関わる画像データの双方とする。

本報の目的は、現状から読み取り可能な設置事業の目的と、視覚的に読み取れる設置事業の性質の 2 点を明らかにすることにあるので、これらのデータのうち、題名、設置場所、作品内容の 3 項目を直接的な分析対象とする。題名は、意味的なデータとして、各サンプルが設置された目的を読み取る材料として利用する。設置場所は、場所に関わる空間的あるいは視覚的なデータとして、各サンプルが所在する場所の属性を把握し、設置事業の目的ならびに性質の解明に利用する。作品内容は、視覚的なデータとして、各サンプルの客観的な形態を把握し、設置事業の性質の解明に利用する。設置年、作品制作者名、素材は基礎的なデータとして後述する表中に表示するに留める。これらの項目の分析からも設置事業の目的や性質にかかわる考察は可能だと考えられるが、考察の主軸にはなりにくいため本報では分析対象から除外する。サン

* 姫路工業大学自然・環境科学研究所／兵庫県立淡路景観園芸学校

表-1 分析対象となるサンプル

(設置年順、設置場所は当初の設置場所)

No.	題名	設置年	作品制作者	設置場所	設置場所属性記号(注)	素材	作品内容
1	平和の塔	1949	中野四郎	浦和市浦和駅前	S1	鉄トランドメント	子供2, 裸像, 鳩あり
2	自由	1950	栗松蔵	東京都千代田区日比谷公園	P2	ブロンズ	女1, 裸像
3	平和の像	1950	菊池一雄	東京都千代田区三宅坂公園	P1	ブロンズ	女3, 裸像
4	平和の女神	1950	制作者名不詳	大阪市心斎橋筋キリンプラザ前	R2	ブロンズ	女1, 裸像
5	平和安全記念碑	1950	岡錦勝三	川崎市昭和重工川崎工場前庭	A1	鉄トランドメント	女1, 着衣
6	平和の像	1951	清水多嘉示	長野市城山公園	P2	ブロンズ	子供1, 裸像, 鳩あり
7	平和像	1951	広井吉之助	長岡市明治公園	P1	ブロンズ	女1, 子供2, 着衣
8	朗風	1951	吉田久継	大阪市心斎橋筋なんば駅前	S2	ブロンズ	女1, 裸像
9	平和大橋	1951	伊藤ノブ	広島市平和大橋	橋梁全体	コンクリート	抽象作品
10	建設と平和	1952	分都順治	前橋市前橋駅前	S1	ブロンズ	男1, 女1, 裸像
11	平和と友情ポスト	1952	岡錦勝三	広島市広島中央郵便局前	A1	ブロンズ	子供2, 1人裸像, 1人着衣
12	豊稔	1953	中川為延	東京都千代田区日比谷公園	P2	鉄トランドメント	女3, 着衣の状況不明
13	復興平和記念碑	1953	樽谷清太郎	北九州市八幡市民開館前	A1	ブロンズ	女2, 子供2, 裸像
14	みどりの塔	1954	新谷英夫	神戸市須磨浦公園	P1	ブロンズ	女1, 裸像
15	平和の像	1954	野田惟恵	糸満市沖縄戦跡国定公園摩文仁	P1	ブロンズ	男3, 裸像
16	平和の像	1954	岡本錦勝	岡山市西川緑道公園	P1	ブロンズ	女1, 裸像, 鳩あり
17	平和祈念像	1955	北村西望	長崎市平和公園	P1	ブロンズ	男1, 裸像
18	自由の群像	1955	菊池一雄	東京都千代田区千鳥湖公園	P1	ブロンズ	男3, 裸像
19	無題	1955	菅沼五郎	横浜市横浜駅西口駅前広場	S2	鉄トランドメント	女1, 裸像
20	郵便は世界を結ぶ	1955	栗松蔵	横浜市横浜港郵便局前	A1	ブロンズ	子供1, 裸像
21	天かける若人	1955	井上信道	横浜市三ツ沢公園	P1	コンクリート	男1, 女1, 裸像
22	若い女	1955	井上信道	横浜市三ツ沢公園	P2	鉄トランドメント	女1, 裸像
23	無題	1955	斎藤聖香	横浜市三ツ沢公園	P2	鉄トランドメント	女2, 裸像
24	無題	1955	中川為延	横浜市三ツ沢公園	P2	鉄トランドメント	女3, 着衣の状況不明
25	平和の鳩	1955	山本常一	広島市こども文化科学館裏	A2	鉄トランドメント	鳩
26	牧童	1956	峯孝	札幌市大通公園	P2	ブロンズ	子供1, 裸像, 子牛あり
27	産業祈念像	1956	山内壯夫	宇都宮市真綿川公園	P1	ブロンズ	男1, 女1, 着衣
28	平和の群像	1956	矢野秀徳	香川県土庄町土庄港	S1	ブロンズ	女1, 子供12, 着衣
29	みどりのリズム	1956	清水多嘉示	岡山市後楽園入口	P1	ブロンズ	女2, 着衣
30	希望像	1956	岡本錦勝	岡山市大供ロータリー	R1	ブロンズ	男1, 裸像
31	太陽を創造する	1956	渡辺義知	岡山市岡山済生会総合病院前	A1	鉄トランドメント	男1, 女1, 子供9, 裸像
32	森の歌	1957	山内壯夫	札幌市中島公園	P1	鉄トランドメント	男女多数の群像, 裸像
33	鉄都誕生記念碑	1957	樽谷清太郎	北九州市高炉台公園	P1	ブロンズ	男2, 女2, 裸像
34	堀川町慰霊碑	1957	坂手護	広島市堀川町	R2	ブロンズ	人物1, 性別と着衣の状況不明
35	海の精	1958	広井吉之助	長岡市山本記念公園	P1	ブロンズ	女2, 着衣
36	翼の像	1958	朝倉文夫	東京都台東区上野駅内	S1	ブロンズ	女1, 裸像
37	青年像	1958	野々村一男	名古屋市名城公園	P1	ブロンズ	男1, 裸像
38	はあみする女	1958	ファルコネ	宇都宮市宇都新川駅前	S2	コンクリート	女1, 裸像
39	新聞少年	1958	朝倉響子	東京都港区有栖川記念公園	P2	ブロンズ	男1, 着衣
40	希望	1958	山内壯夫	札幌市市民会館前	A1	鉄トランドメント	女1, 着衣, 鳩あり
41	春風にうたう	1958	山内壯夫	札幌市南9条緑地	P1	鉄トランドメント	抽象作品
42	神戸肉の但馬牛	1958	広部兵三	神戸市須磨海浜公園	P2	鉄トランドメント	牛
43	機たわる女	1958	菊池一雄	神戸市海浜公園	P2	鉄トランドメント	女1, 裸像
44	原爆の子の像	1958	菊池一雄	広島市平和記念公園	P1	ブロンズ	子供4, 着衣, 鳩あり
45	弓をひく若人	1958	峯孝/藤田	岡山市県総合グラウンド	P1	ブロンズ	人物1, 性別と着衣の状況不明
46	新聞少年	1958	朝倉響子	岡山市西川緑道公園	P2	ブロンズ	男1, 着衣
47	殉難学徒の像	1959	制作者名不詳	半田市雁宿公園	P1	ブロンズ	女1, 裸像
48	低頭太鼓	1959	米静雲	北九州市小倉駅前	S1	ブロンズ	男3, 着衣
49	平和	1959	翁朝盛	仙台市勾当台公園	P1	ブロンズ	女1, 子供1, 裸像
50	泉の像	1959	本郷新	札幌市大通公園	P1	ブロンズ	女3, 着衣
51	笛を吹く少女	1959	山内壯夫	札幌市中島公園	P2	鉄トランドメント	女1, 着衣
52	母と子の像	1959	山内壯夫	札幌市中島公園	P2	鉄トランドメント	女1, 子供1, 着衣の状況不明
53	瞳孔	1959	新谷英夫	神戸市長田神社	A2	石	抽象作品
54	牧歌	1960	本郷新	札幌市札幌駅前	S1	ブロンズ	男2, 女3, 裸像, 羊, 昆布等あり
55	大地	1960	坂迫道	帯広市帯広駅前	S1	ブロンズ	男女多数の群像, 裸像
56	花の塔	1960	新谷英夫	神戸市下山手街園	R2	鉄トランドメント	抽象作品
57	水の守護神	1960	トル・ホド	横浜市山下公園	P1	コンクリート	女1, 着衣
58	牧歌	1960	舟越保武	広島市広島駅前	A1	ブロンズ	子供2, 鳩あり
59	嵐の中の母子像	1960	本郷新	広島市平和記念公園	A1	ブロンズ	女1, 子供1, 着衣
60	祈りの像	1960	横江嘉純	広島市平和記念公園	P1	ブロンズ	男1, 女1, 子供1, 裸像

(注) 設置場所属性記号 P: 都市公園, S: 駅前広場, R: 街路, A: 建物周辺

1: 空間構造上の象徴的意味をもつポイント, 2: 空間構造上の象徴的意味が稀薄なポイント

↑: 仰角をもって鑑賞される位置に設定されたもの, ←: 水平または俯角をもって鑑賞される位置に設定されたもの

プルの中には、設置事業の主体者、設置の経緯、出資者などに關する個別のデータが得られるものも多いが、サンプルによってばらつきがあり個別的分析になるため本報では分析過程で補助的に用いることにした。

4. 分析対象となるサンプル

上記の調査により、最終的に60点のサンプルが本報における分析対象となった(表-1)。

公的空間に設置された彫刻の全数把握が行われていないために、これらのサンプルが現実に存在する本報の条件を満たす彫刻のうちどの程度の割合を占めるのかは不明だが、全体的な傾向を把握する上では十分なサンプル数に達していると考えられる。

1945年から1960年の期間を対象に調査を実施したが、1948年以前に設置された彫刻は検出されなかった。検出されなかった期間は、戦前の銅像の撤去、移設が行われていた時期で、経済的あるいは政治的観点から新たな彫刻を設置するような社会状況になかったものと推測できる。本報の分析対象の期間は、1949年から1960年ということになるが、これを以下では1950年代と記述する。

5. サンプルの分析結果

(1) 題名

題名は、彫刻設置の目的に関連する場合がある。「平和の像」は平和という社会的概念を表現すること、「産業祈念像」は産業の発展を願うことを目的とするものだと考えることができる。このような視点から、題名に関して分析対象を整理すると、「平和」という用語を含むサンプルが最も多く12点と突出している。なお、題名の一部を構成する「希望」「牧歌」「みどり」などの用語も、間接的に「平和」をイメージさせると考えることも可能である。つづいて「自由」を含むものが2点ある。「平和」と「自由」は、ともに戦前、戦中の軍国主義や国家主義というような社会的概念に対立する戦後の新しい価値観に基づくものといえる。ただし、「平和」を含むサンプルは、その大半が1955年以前に設置されており、1950年代前半に集中的に設置されたようだ。

また、「建設と平和」「産業祈念像」「鉄都誕生記念碑」「神戸肉の但馬牛」のように産業に関わる題名をもつものが4点見られ、これらは戦後の復興期にあたる当時の社会状況を反映するものと考えられる。

以上のサンプルはいずれも題名に関して社会的性質をもつものであり、サンプル全体の中での比重は、後の計画的な彫刻設置事業との比較において、定量的な検証を行うのは困難ではあるが明らかに高いと考えられる。近年の彫刻設置事業における作品は、その大半が自律した美術作品として制作者個人によって命名される個別的で私的な題名となるのが通例だからである。

(2) 設置場所

設置場所については、サンプルの所在地の空間的な属性と、台座などに関わる作品の取り付け方法に関わる性質の2つの視点から分析を行うこととする。

(i) 設置場所の空間的な属性

設置場所の基本的な属性として、橋梁全体を作品化したサンプル1点を除いて、都市公園、駅前広場、街路、建物周辺の4種類があった。それぞれ、35点、10点、4点、10点となっている。1950年代に整備されていた都市公園は、いずれも各都市の核的な場所に位置する都市広場的なものが多い。分析対象では横浜市の三ツ沢公園を除き、概ねそのような性質をもつ公園になっている。また、駅前広場のサンプルは、全てが各都市の中央駅としての性質をもつ駅に付随するものである。したがって、過半の作品がその都市の拠点的な市民の交流点に位置していると考えられる。

ここではさらに、上記の設置場所の中で作品が位置するポイントの空間特性として次の2つの分類を設定する。都市公園の場合、一つは、その公園の主軸上、広場の中心、正面入口前というような空間構造上の象徴的な意味のあるポイントであり、もう一つは、植栽地や池の脇、園路の路肩というような空間構造上の象徴的な意味が稀薄なポイントである。以後、前者をP1、後者をP2と標記する。駅前広場、街路、建物周辺についても全く同様の考え方にに基づき、空間構造上の象徴的な意味のあるポイントと、そうでないポイントに区分する。それぞれS1とS2、R1とR2、A1とA2とする。全サンプルについて集計すると、P1、S1、R1、A1の合計が38点、P2、S2、R2、A2の合計が21点になる。ここから過半の作品が、各設置場所において空間構造上の象徴的な意味のあるポイントに位置していることがわかる。

(ii) 作品の取り付け方法

作品の取り付け方法について次の2つの分類を設定する。一つは、台座などの付属物により、作品が目の高さ程度以上、すなわち150cm程度以上の高さに取り付けられ、仰角をもって鑑賞されるように設定されたものであり、もう一つは、台座などの付属物があるにせよ、水平または俯角をもって鑑賞されるように設定されたものである。集計すれば、前者に相当するサンプルが43点、後者に相当するサンプルが17点になる。ここから過半の作品が、仰角をもって鑑賞されるように設定されたものであることがわかる。

(iii) 設置場所に関する総合的な分析

①都市の拠点的な市民の交流点を設置場所とすること、②各設置場所において空間構造上の象徴的な意味のあるポイントに位置すること、③仰角をもって鑑賞されるように作品が取り付けられること、これらは、いずれもかつての銅像と共通する性質であり、分析対象の設置場所の性質は全般的に銅像との類似性が高いと考えられる。サンプルの一部は、かつての銅像と比較して、表現すべきメッセージの内容は変化しただけで、社会に対して何らかの社会的メッセージを表現しようとする態度の中に質的な共通性があると考えられる。つまり、サンプルの一部は、かつての銅像が国家主義や軍国主義を賛美するために設置されたのと同じような考え方で、平和主義や自由主義を賛美する目的を孕んでいたと考えられる。

ただし、札幌市中島公園における山内壮夫による一連の作品や横浜市三ツ沢公園の井上信道、斎藤聖香、中川為延による作品群に着目する必要がある。前者は北海道大博覧会、後者は国体に関

連して設置された作品群だが、その多くが高い台座をとまわず、都市公園内で植栽と調和しながら修景的な存在となっている(写真-1)。題名にも社会的性質は感じられず、「平和」や「自由」などというような社会的なメッセージを放とうとする雰囲気は感じられない。これらは、純粋な美術作品として社会に貢献しようとしているように感じられ、後の1961年以降の設置事業との類似性が強い。

また、宇部市のファルコネによる「ゆあみする女」は、庭園材料として売られていたものを宇部市公園緑地課が購入、設置したにすぎなかったが、宇部新川駅前の池の中に修景的に設置したところ市民に大好評となり、このことをきっかけとして1961年から日本で最初の計画的な彫刻設置事業が始まった。都市景観の修景を目的とする「彫刻で町を飾る事業」である。

(3) 作品内容

人物をモチーフとしないものは、6点にすぎない。この内訳は当時としては前衛的な抽象作品が4点、牛が1点、鳩が1点である。ただし、鳩を造形の一部に付随的に含む作品は、この他に5点ある。

ここでの人物像は、全てが匿名の人物をモチーフとするものであるわけだが、それらのうち32点が裸像で、着衣の像12点を上回る。裸像には、男性と女性の双方が含まれる。

裸像と着衣の像の別を無視した場合、男性単独、女性単独、男性群像、女性群像、男女群像、子供単独、子供群像、男女子供群像、女性と子供の群像というように多様である。

また、大半の人物は、若く健康で平静な状態に見える。広島市に設置された2点のみ、絶叫や苦境の状態が表現されており、これは被爆の状況と考えられる。

作品内容の分析における最大の問題は、「平和」というような社会的概念を表現しようとした彫刻が、匿名性をもつ人物をモチーフとしつつ多数の裸像となったことである(写真-2)。本報では鳩を含むサンプルが6点検出されたが、鳩は日本では八幡信仰などと結びつき平和の使者として「平和のシンボル」の意味をもつことが知られており、平和を表現する上で、わかりやすいモチーフといえる。子供の姿もまた人間の普遍的で根源的な感覚の中で、平和と結びつくものである。1950年代に突如公的空間に表れた裸像は、建物の装飾として取り付けられたギリシア神話風のものを除き戦前には全く見られなかったものだ。同時に1961年以降の彫刻設置事業においても多数の裸像がその対象となり、現在においても設置されている。近年では、女性蔑視につながるのではないかとこの視点から問題視されることもあり、宝塚市では1978年に中心市街地の宝塚大橋の上に設置された女性裸像が大きな話題になったことがある。⁶⁾ また、一般論としてマスコミなどで議論される機会も多くなっている。⁷⁾

欧米では美術作品としての裸像の制作は古くから行われているが、美術館以外の公共的な場所、とりわけ一般市民の日常生活空間に設置するようなことはキリスト教文化の中で行われていない。公的空間に設置される裸像は、基本的にギリシア神話風にその造形的表現やテーマが演出されている。ただし、墓地には墓標の装飾として被葬者の裸像を取り付けることがある。パリ市のサン・ジノサン墓地にある女性裸像には「ここに伏す我は、その罪ゆえに衣服を剥がされる。かく、我は生まれ出で、裸となりて起き上がる備えをなす。」と書き添えられている。ここからわかるようにキリスト教文化における公的空間における裸像は、「罪の結果」と「復活の準備」を意味するとされている。⁸⁾ このようにキリスト教圏では、公的空間において裸像は限定的な条件下においてしか存在し得ないのである。現実には欧米諸国において公的空間の彫刻の調査を行っても、日本で普通に見られるようなリアリティーに富む裸像は見あたらない。一つの都市の野外彫刻を網羅的に調

写真-1 都市公園等における修景的な事例
(サンプル No.51)

写真-2 平和をテーマとする裸像の代表例
(サンプル No.3)

写真-3 母子像の事例
(サンプル No.49)

査した資料からも同様の検証が可能である。⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾つまり、公的空間における裸像の存在は、先進国では日本特有の状況であり、かつ、それが1950年代に始まったのである。

6. 考察

1950年代の彫刻設置事業は、基本的には戦後の新しい社会的価値観や平和主義あるいは自由主義というような新しいイデオロギーを賛美することを目的とすることが多かったと考えられる。ただし、それらは、国家主義や軍国主義というような社会的価値観を賛美することを目的としたかつての銅像と、賛美する社会的価値観の内容が入れ替わっただけで、その彫刻が存在する社会の価値観を賛美、表現するという目的は共通していたのである。また、中心市街地の要所に高い台座を建て、その上に彫刻をのせるという手法も銅像の流れをそのまま継承するものであった。つまり、1950年代のこれらの彫刻は、銅像と共通する性質を色濃く残していたのである。

しかし、これらの多くが匿名の人物の裸像という全く新しい独自の形態を採用したことに注目しなければならない。ここに、1950年代の彫刻設置事業のオリジナリティがあり、その背後には日本の文化的あるいは宗教的な土壌が横たわっていると推察される。

戦後間もないこの時期に、なぜ裸像を設置したのであろうか。裸像に対し、進歩的でアカデミックで欧米的な印象を感じたのかもしれないし、平和を願う気持ちから人間の本質を表現したいと考え、衣服は不要と考えたのかもしれない。ではあるが、少なくとも彫刻設置事業にキリスト教の影響がなかったことは確かである。ただ、これは推論の域を出るものではないが、かつて、戦乱の続いた安曇野地方では、戦乱や飢饉が収まると平和を祈願して、農民が多額の費用を投じて石工を招き、仏教系民間信仰に基づく道祖神を設置した事実がある。それらの多くは、抱擁像、接吻像、

交合像などと呼ばれるように男女の裸体をモチーフとしたものであった。こうした、仏教的な文化的土壌と戦後の彫刻設置事業は、なんらかの関連をもつのかもしない。この推論に関連するサンプルがある。仙台市に設置された「平和」は、女性と子供の組み合わせで典型的な母子像の形態をとる(写真-3)。この形態は、キリスト教美術における聖母子のテーマを採用する作品と一見類似するように感じられる。だが、聖母子であれば、マリアに相当する母親が裸体であることは考えにくい。一方、日本の仏教美術にも慈母観音と呼ばれる母子像がある。こちらは通常、母親が胸を露出しており仙台市の「平和」は、明らかにこちらに近い。このサンプルは、戦後に公的空間に設置された彫刻における、仏教美術の影響を示す事例である。

そして、こうした裸像に関わる独自性は、1961年以降の計画的な彫刻設置事業にも大きな影響を及ぼし、今日の日本の彫刻設置事業の基礎となったと考えられる。

また、1950年代には、社会的価値観の賛美、表現を前面に出さずに都市公園などの修景的な要素となる彫刻がごく少数ではあるが出現し、これらが1961年以降の計画的で大規模な彫刻設置事業のプロトタイプとなったと考えられる。

以上のような観点から、1950年代の彫刻設置事業は、戦前の銅像と1961年以降の計画的な彫刻設置事業の双方の性質を合わせ持つことができる。両者の変遷期における中間的な性質もつ設置事業であったと考えてよいだろう。

もちろん、本報で分析対象とした以上のような設置事業は、1961年の宇部市における彫刻設置事業の開始をもって終了したわけではない。その後も継続し、都市景観の修景や文化の振興などを目的とする現在の彫刻設置事業の中に徐々に同化していく。ただし、現在においても自治体の非核平和都市宣言などにともない、時折復活する場合もあるようだ。

参考文献

- 1) 竹田直樹・沈悦・斎藤藤平(2000): 公的空間における彫刻の作品選定システムについて: ランドスケープ研究 63(5), 675-678
- 2) 杉田幸三(1971): 日本史の心-銅像は生きている: 永田書房, 12-254
- 3) 竹田直樹(1988): 公共彫刻の作品と設置の傾向について: 日本造園学会関東支部大会研究・報告発表要旨 6, 36-37
- 4) 竹田直樹・白井彦衛(1989): 都市環境における芸術の導入手法Ⅰ. 公共彫刻の特性について: 千葉大学園芸学部学術報告 42, 19-27

- 5) 竹田直樹(1997): パブリックアートデータベース-日本のパブリックアート作品2000: マルモ出版, CD-ROM
- 6) 「愛の手」は女性蔑視-宝塚: 朝日新聞, 1978.4.19号などの報道がある。
- 7) 代表的なものとして、西山千恵子: 公共の場に女性ヌード彫刻は必要か: 朝日新聞, 1995.7.4号, 田崎まき子: 女性の主張が世の中を変える: 朝日新聞, 1996.9.21号, 素朴な大疑問155-彫刻のモチーフに女性の裸体が多いのはなぜ?: ダカーボ 390, 1998.2.4号などがある。
- 8) キャスリーン・コーエン, 小池寿子訳(1994):

死と墓のイコノロジー: 岩波書店, 76

- 9) George McCue (1982): SCULPTURE CITY ST. LOUIS: Hudson Hills Press, Inc., 1-177.
- 10) H.B.Cool (1987): BEELDEN EN MONUMENTEN IN DE STAD ANTWERPEN, Middelheim, 1-48.
- 11) Terry Cavanagh (1997): PUBLIC SCULPTURE OF LIVERPOOL, LIVERPOOL UNIVERSITY PRESS, 1-371.
- 12) George T.Noszlopy (1998): PUBLIC SCULPTURE OF BIRMINGHAM, LIVERPOOL UNIVERSITY PRESS, 1-229.

Summary: This report offers a study and analysis into the purpose and content of early sculpture installation projects of the 1950s before pre-planned sculptural installations became more developed. Results of the study show that many sculptures in the 1950s were installed in praise of a new ideology such as the post-war social values, pacifism and liberalism. It was also around this time that nude male and female statues first appeared in public spaces. Therefore it can be said that projects from this time have the features of pre-war bronze statues as well as the more recent, modern sculpture installation characteristics. Projects in the 1950s exhibited intermediate characteristics and were clearly within a transition period between two different stages.